

令和4年度 GKP 広報大賞 エントリーシート

団体名 三島市 都市基盤部 下水道課	団体区分 (混成の場合は複数☑) <input checked="" type="checkbox"/> 行政 <input type="checkbox"/> 民間 <input type="checkbox"/> 学校・NPO・個人等
取組名 下水道事業が隠れ持つ新たな可能性を開く取り組み～みんな笑顔に！～	
責任者 (実際に広報に取り組んだチームの代表者) 氏 名 : 岡村 秀一 所 属 : 三島市 都市基盤部 下水道課 電 話 : 055-983-2661 E-mail : gesui@city.mishima.shizuoka.jp	
担当チームの構成 (外部人材を活用している場合や外部委託をしている場合等は、その旨記載して下さい) 下水道課職員 7名 浄化センター職員 3名	
取組のポイント (一言でいうとどういう取組かを、箇条書き等で記載して下さい) ① 「下水道事業の広報×○○○」 を意識した広報の展開。 = [観光振興] [教育・学習] [環境改善] [景観向上] 「下水道事業+α」で仕掛けた多くのイベントが多様な分野で効果を展開、発揮！ ② 事業を企画する人も、参加者も、 わくわく！たのしい！新しい発見！ 下水道で笑顔を！	
アピールポイント ポイント1 すべて民間・団体・市民との共創 の取組み すべてのイベントは、民間・団体・市民と一緒に考えて、作り上げた。また、それぞれの団体が持つ広報のネットワークがさらに広報の効果を広げ、今まで下水道事業に関心がない市民・人々にもPRできた。 ポイント2 市民が下水道に触れ合う 機会を積極的につくる 「みんなで街を守ろう！マンホール聖戦 in 三島」は市民参加型イベント、「デザインマンホール」は中心市街地で多くの市内外の方が目にする場所、「チャレンジ！浄化センターの道路に絵をかこう」では近隣小学生を中心に参加、「下水汚泥由来肥料のイメージアップ事業」は市内小中学生の学習素材と史跡山中城の障子堀への散布で魅力向上につなげる。どれも市民が気軽に参加でき、次に展開できる取組み。※参加人数は後述 ポイント3 報道機関に多数取り上げ られ、報道の連鎖やイベントに関する問い合わせ増加 特に「マンホール聖戦 in 三島」では地方紙や地方テレビ放送で次々に取り上げられ、さらには全国放送につながった。三島市×下水道を広く周知できた。	
要したコスト 他の団体などの皆さんの協力により、市の負担は「マンホール聖戦 in 三島」チラシ代、「デザインマンホール」デザイン報酬のみ。	

取組の概要（適宜、写真や図等を挿入して下さい。複数年度にわたる取組の場合は、その旨記載して下さい）

第1弾 イベント「みんなで街を守ろう！マンホール聖戦 in 三島」 ※自治体では全国初

開催期間：令和4年3月19日（土）～3月24日（木）

自由に参加できるイベント。参加者はWebアプリを使用して、三島市内に分布するマンホールの写真撮影・投稿を行い、投稿数を競い合うイベント。シビックテックの推進や事後保全⇒予防保全⇒予知保全（AI活用）へとつなげる。

キーワード：下水道×IT、下水道×観光、下水道×ウォーキング



第2弾 SDGs！下水汚泥由来肥料のイメージアップ事業

三島市で発生した下水汚泥由来の肥料をイメージアップするため、小中学校で使用してもらう取組みを開始。肥料が作られた過程を説明し、環境に配慮した取組みを知る学習につなげる。児童・生徒は汚泥が肥料になることを知り、肥料が校庭の花壇に花を咲かせることを体験。

キーワード：下水道×学習、下水道×環境



第3弾 イベント「チャレンジ！浄化センターの道路に絵をかこう」

地域のアーティストとコラボした企画。アーティストの描いた絵に子どもたちが色を塗り、「水のたび」をイメージした絵が完成。浄化センターの施設見学も行い、普段触れることのない施設に親しみを持ってもらった。

キーワード：下水道×アート、下水道×学習



第4弾 市内絵本作家とコラボ！デザインマンホール設置

三島市在住の絵本作家 宮西達也さん、えがしらみちこさんが書き下ろしたマンホールを絵本作家のお店の前に設置（2か所）。下水道を身近に感じてもらおうきっかけづくりに加え、絵本作家のファンを通じた三島市への誘客、また、文化的側面「えほんのまちみしま」のPRにもなった。

キーワード：下水道×観光、下水道×文化



成果（数字を交えるなど、できるだけ具体的に記載して下さい）

(1) 報道実績等 ※下水汚泥由来肥料は今後展開していく

	新聞	テレビ	ネットニュース
「マンホール聖戦 in 三島」	9	6	14
「浄化センターの道路に絵をかこう」	3	1	3
デザインマンホール設置	3	0	2

※3月に開催された「マンホール聖戦 in 三島」では、宮城県の「DXソリューション事例集」や行政視察（1件）に加え、インフラ管理の研究材料になるなど、参考事例として活用された。長期にわたり取材が続き、イベント直後から11月現在まで取材依頼がある。

(2) 参加人数と効果

- ・「マンホール聖戦 in 三島」は登録申込615名、「浄化センターの道路に絵をかこう」は延べ149名参加、「下水汚泥由来肥料のイメージアップ事業」は小学校14校・中学校7校で自然が循環していることを学習。
- ・「マンホール聖戦 in 三島」は市民に関心を持ってもらえた結果、想定より早く1万基のマンホールの写真が2日間で集まった。